

シクロケム γCD包接R体αリポ酸の新知見 胃から吸収される可能性示唆

(株)シクロケム(神戸市中央区)は、最新の研究により、R体αリポ酸をγCD(シクロデキストリン)で包接することで、体内吸収速度が高まるほか、抗糖尿病効果が期待できる結果を得たことを明らかにした。

これまでの人工胃液を使った試験では、γCD包接型R体αリポ酸は胃酸などに影響を受けずに、100%残存して安定的に向上することが確認されていた。

今回の試験では、ラットにγCD包接型R体αリポ酸、R体αリポ酸のみを経口投与して吸収性を調べた。その結果、γCD包接型では投与後20分もかからずに、すぐに血漿中のR体αリポ酸濃度が高まることが確認された。このメカニズムを人工胃粘液中調べたところ、胃の粘液層(ムチン層)でR体αリポ酸の溶解度が高いことが確認された。これらの結果により同社では、γCD包接型R体αリポ酸は、胃の粘液層でR体αリポ酸がγCDから解離して、胃の生体膜から吸収されている可能性があるとしている。

また、糖尿病モデルマウスにγCD包接型R体αリポ酸、同S体αリポ酸、同ラセミ体αリポ酸

を与えた試験では、R体αリポ酸投与群はコントロール群に比べて有意にHbA1cが低下し、S体やラセミ体投与群よりも作用の大きいことが確認された。

さらに、R体αリポ酸はインスリン抵抗性改善作用のあるアディポネクチンの産生効果、糖や脂質の燃焼を増加させるAMPKの活性化効果についても、S体やラセミ体よりも効果の高いことが確認されており、同社では抗糖尿病効果が期待できるとしている。